

しあわせの花開く ——福祉の丘に——

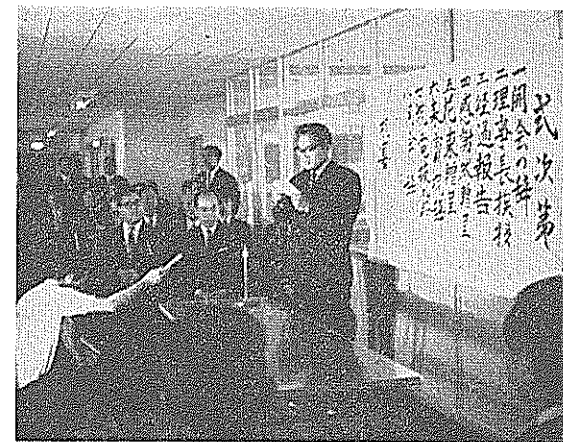


「希望の家」「清風園」
生まれ変わる年越山

ふとしたことから体の自由をなくし、誰れかの介護を受けなければならぬ恵まれない重症の子どもたちと、寝た切りのおとしよりの人たちにしあわせを贈る二つの施設が、それぞれの人たちの善意によって、年越の山に福祉の丘に花を咲かそうとしています。

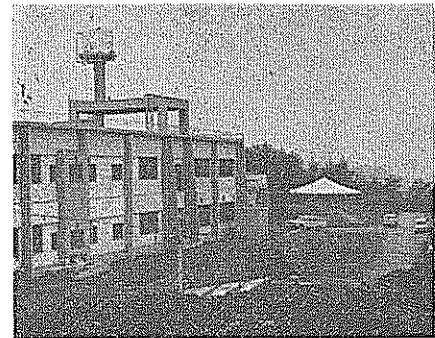
これまで源希義悲憤の地としか知られなかった「年越山」は、市の中心に近く、墓地の多い小高い山としかみられていませんでしたが、いまでは社会福祉の山として全国に知られようとしています。

その一つ「土佐希望の家」は、重症心身障害児療育施設として、いまだ四年前に山崎勲氏が土佐山田町に開設、以来氏の独力によって運営されてきましたが、二年前より「高知県重症心身障害児・者を守る会」（紫藤貞美理事長）と「希望の家後援会」（下司孝磨会長）によって、理想的な療育施設にする運動が起こり、国、県そして世界のひとびとの温かい資金援助によって、移転建設用地を土佐山田町中野に求め、起工式を挙行するまでは順調にすすめられてき



写真は 経過報告をする山崎さん

ましたが、工事に着手する段階になり一部の地元住民の根強い反対にあって、説得するも了解を得ることができないまま、誰れかの介護を受けなければならない恵まれない重症の子どもたちと、寝た切りのおとしよりの人たちにしあわせを贈る二つの施設が、それぞれの人たちの善意によって、年越の山に福祉の丘に花を咲かそうとしています。



写真は白いテントのところから向う側に清風園が建設される

昨年六月、老人ホームの計画をたてていた清風会がこれを誘致し、モデル福祉センターにしようという声がおこり、金堂市長の援助と会員の努力によって、年越山にその用地を確保することができ、わずか一か月後の昨年七月には、「土佐希望の家」の起工式が年越山山上で行なわれ、この六月十二日に病棟の落成式が行なわれました。

この「土佐希望の家」の第一期工事は、昨年の七月からの用地造成に引きつづき九月から本年五月まで行なわれ、鉄筋コンクリート二階建ての病棟一むね、延べ千五百九十平方メートル、ベット数八十、現収容能力五十人、総工費九千六百万円で完成し、六月一日から児童を収容し、十八日現在、十五人の療育にあたっています。

＊

なお、引きつづき第二期工事に着手しており、三階建ての管理棟一むねが来年三月に完成すれば、百人の児童を収容することができ

明年四月、開園予定で工事がすすめられております。

総工費は一億一千万円で、自転車振興会より五千二百四十五万円、県と市よりそれぞれ一千六百万円、清風会拠出金二千四百三十五万円、一般寄附金六十五万円などの資金により、鉄筋コンクリート三棟（一部二階建て）、面積千五百八十四、五平方メートル（約五百坪）、収容人員八十人の施設が



写真は 鉄入れをする山本清風会長

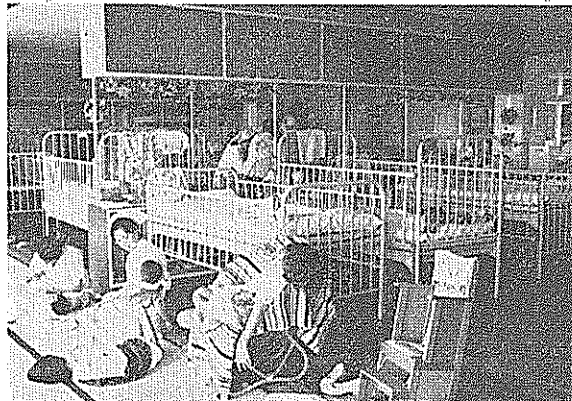
希望の家の西側に建設されます。



写真(右) 子どもの待ちこがれていた明るい病棟

そうした施設がつぎつぎとくられるように努力してゆきたいものです。

写真(下) ベットも完備して



写真(左) 明るい日差しを受けたのしい昼食

みなさんのご協力によって「土佐希望の家」はできました。しかし、私たちの仕事は終わったわけではありません。本当の仕事はいま始まったばかりです。経済、政治、運営面でこれからも南国市民のみなさんにお

希望の芽として 紫藤理事長

世話になることとおもいますが、やがて、お隣りに姿を現わす。「清風園」と同様新しい南国市の希望の芽として末ながくご支援のほど願います。

幸せの灯に 山本清風会理事長

この一年、市や県、地区民の

人たちのご尽力によって、この地に希望の家と清風園の二つの施設ができることになりました。これは、福祉事業の大きな前進といえます。このうえはこの施設が無事完成し、恵まれない人たちに、幸せの灯をともしただけです。よう、こんごもご協力をお願いします。

設備資金としてみなさんの
浄財をお寄せください。

市社会福祉協議会

